

持続可能な未来への道

メーカー各社 **SDGs** の取り組み

Vol.19

ダイキン工業株式会社

今や、企業の共通言語となりつつあるSDGs。とりわけ、電設資材メーカーとの親和性は高く、2030年までに達成することを目指すSDGs17目標のうち「07:エネルギーをみんなにそしてクリーンに」「08:働きがいも経済成長も」「09:産業と技術革新の基盤をつくる」「11:住み続けられるまちづくりを」「12:つくる責任 つかう責任」「13:気候変動に具体的な対策を」などは、電設資材メーカーの企業活動そのものとも言えます。



そこで、全日電材連賛助会員の電設資材メーカー各社を順番に訪問し、その先進的な取り組みをご紹介します。

ダイキン工業株式会社 概要

本社所在地：大阪市北区梅田 1-13-1 大阪梅田ツインタワーズ・サウス
 創業：大正 13 年 (1924 年) 10 月 25 日
 取締役社長兼 COO：竹中 直文
 従業員数：単独 7,866 名 連結 103,544 名 (2025 年 3 月 31 日現在)
 主な事業内容：空調・冷凍機、化学、油機、特機、電子システム
 H P : <https://www.daikin.co.jp/>



空調関連事業沿革：

- 1924年 合資会社大阪金属工業所を創立
- 1934年 大阪金属工業株式会社を設立
- 1935年 冷媒用フロンガスを開発
- 1949年 大阪証券取引所第一部に上場
- 1951年 日本初のパッケージエアコンを開発
- 1957年 東京証券取引所第一部に上場
- 1963年 堺製作所 金岡工場を大阪府堺市に新設、業務用エアコンの本格生産開始
- 1963年 ダイキン工業株式会社に社名変更
- 1970年 滋賀製作所を滋賀県草津市に新設、家庭用ルームエアコンの本格生産開始
- 1978年 堺製作所 臨海工場を大阪府堺市に新設、コンプレッサーの製造工場として生産開始
- 1982年 日本初のビル用マルチエアコンを発売
- 1999年 世界初、無給水加湿機能を搭載したルームエアコン「うるるとさらら」を発売
- 2004年 世界初、ストリーマ放電技術の実用化成功
- 2011年 ショールーム「フーハ東京」を新宿NSビルに開設
- 2012年 世界初、R-32冷媒を採用したルームエアコン「うるさら7」を発売
- 2013年 ルームエアコン「うるさら7」が、第5回ものづくり日本大賞「内閣総理大臣賞」を受賞
- 2013年 ショールーム「フーハ大阪」をグランフロント大阪に開設
- 2015年 グローバル技術開発拠点、テクノロジー・イノベーションセンター (TIC) を大阪に設立
- 2017年 米ヒューストンに当社最大級の生産・研究開発拠点設立
- 2020年 空気清浄機の国内生産開始
- 2024年 創業100周年

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



『空気』にこだわった事業展開 空調事業を通じて社会課題の 解決に取り組む

第19回の訪問メーカー様は、世界170カ国以上で事業展開し、空調分野では世界トップの売上高とシェアを誇るダイキン工業株式会社様です。

創業は1924年という老舗メーカー、昨年(2024年)に創業100周年を迎えられました。現在、「空気で答えを出す会社」として、冷媒から業務用・家庭用エアコン、空気清浄機など、空調専門メーカーとして、快適な空気質を追求する製品開発を行っていらっしゃいます。

東京・新宿にある体験型ショールーム「フーハ東京」にて、吉澤正人CSR・地球環境センター担当部長、黒川清重空調営業本部営業開発部営業担当課長のお二人からからお話を伺いました。

(文中での敬称は略させていただきます。)



黒川清重
空調営業本部
営業開発部
営業担当課長

吉澤正人
CSR・
地球環境センター
担当部長

ダイキン工業のSDGs

編集部

ダイキン工業様では、SDGsをどう捉えていらっしゃるのでしょうか。

吉澤 当社では、SDGsは2030年のゴールに向けて企業が進む方向性を示すものと捉えています。

大前提として、当社におけるサステナビリティは会社の成長との両立であり、事業を通じて社会課題の解決に取り組む事が、SDGsへの貢献につながるかと考えています。

また、現在グローバル社会が直面している様々な社会課題の中で、当社が解決し得るものとしては、気候変動の深刻化、エネルギー・電力需要の拡大と集中、大気汚染の深刻化などが挙げられます。

当社の主力である空調事業を通じてこれら社会課題の解決に取り組むことで、新たな価値を社会に提供し、持続可能な社会の実現に貢献できると

考え、SDGsの目標3、7、9、11、12、13が当社にとつての優先課題であると特定しています。

編集部

新たな価値とはどういう価値でしょうか。

吉澤 人と都市と地球環境に対する価値のことで、それぞれ次の通り考えています。

「地球環境に対する価値提供」と

は、省エネルギー性をはじめとした環境性能の高い空調機を世界に普及させることで環境負荷を低減し、気候変動の抑制に大きく貢献すること。

「都市に対する価値提供」は、新

興国をはじめとした急速な都市化によって生じるエネルギー関連課題に対して、エネルギーマネジメントによって空調機と建物が一体になった省エネルギーの実現や再生可能エネルギーの効率的な運用を実現するなどして、持続可能な都市づくりに貢献する。

「人に対する価値提供」は、空調

機は経済成長や生活の質の向上に貢献するとともに社会イン

フラの一つとなっているが、空気の可能性を更に追求することで人々の生活に新たな可能性を追求する。

また、それら価値創造を支える基盤として、「人材」と「協創」に関する貢献が必要不可欠であり、次のように捉えています。

「人材」：高いスキルを持つ人材の

育成や雇用創出など従業員、地域の人々の成長に貢献する。

「協創」：市場価値形成（国際ル

ルや基準作り）や人々の暮らしの向上に貢献する新たなソリューションの創造など産官学連携で社会課題解決に貢献する。

SDGsの目標では8（働きがいも経済成長も）と17（パートナーシップで目標を達成しよう）に該当します。

編集部

国内だけでなく、グローバルでのSDGsを考えていらっしゃるのですね。

吉澤

世界では、まだまだエアコンが普及していません。主に新興国になりますが、エアコン



需要は今後ますます拡大し、IEA（国際エネルギー機関）によると、2050年にエアコンの市場規模は現在の3倍になると予測されています。それに対し、我々にはエアコンを供給するという社会的使命がある一方で、CO₂排出量も増えるわけですから、省エネルギー性能が高いエアコンを供給するという責任があります。

また、温室効果ガスである冷媒についても、世界的には温暖化係数が高い「R410A」が主流のため、温暖化係数の小さ

い「R32」の普及拡大を進めています。

つまり、グローバルでSDGsを考えることは、高付加価値商品の開発という事業面でのプラスにも環境負荷の低減にも繋がっているのです。

■SDGs貢献取組み事例

編集部 では、具体的なSDGs取組み事例について教えてください。

吉澤 当社の主力商品である空調機は欠かすことの出来ない社会インフラである一方、普及に伴う電力消費量が地球環境問題、とりわけ気候変動に大きな影響を与えています。そのため、気候変動を経営に最も影響を与える重要テーマとして、SDGsのゴール13（気候変動）に具体的な対策を）に対応する取組みを以前より行っています。

例えば、5か年計画「FUSION25」の成長戦略テーマとして、「カーボンニュートラルへの

挑戦」を掲げ、次のような取組みを行っています。

- グローバル全域でのInV（インバタ制御）化加速など、製品使用時における消費電力削減。

- H/P暖房給湯の事業拡大
- グローバルでのR32冷媒化の推進や、自然冷媒の普及活動と

量産化、次世代冷媒の開発など。

- 化学を除く全工場で、2030年にGHG排出実質ゼロ化に挑戦：堺製作所臨海工場（大阪府）を皮切りに、3工場で既に実質ゼロ化を達成。

- マイクロ水力発電の拡販やCO₂回収・利活用技術獲得などカーボンニュートラル社会を見据えた新事業への挑戦。

- サークユーエコノミーへの取組み：冷媒エコサイクル（回収・再生）の構築をグローバルで加速。その他使用部材についても、再生材料の活用、耐久性向上など、循環性に配慮した取組みを強化。

編集部 「人材」や「協創」面での取組みは如何でしょうか。

吉澤 エアコンの設置には工事が伴いますから、工事やメンテナンスを担う人材の育成は重要な観点となります。これまで、インドやタイなどで支援を行ってきました。

また、その地域に合った適切な空調機を普及させるには、1企業の力では足りません。政府や国際機関との協業により展開しています。

編集部 政府や国際機関との協業について、もう少し詳しく教えてくださいいただけますか。

吉澤 政府や国際機関と連携協力し、国際ルールや基準作りなどに取組む事です。これまで、微燃性冷媒R32に関するISO規格の改定や、インドでの評価基準とラベリング制度の導入、ブラジルでの省エネ基準改正など、多くのルール形成に関わってきました。

■SDGs達成目標

編集部 SDGs達成目標を教えてくださいいただけますか。

吉澤 当社では、以前より「環境」を経営に影響を与える重要なテーマの一つとして捉えています。2018年に長期視点で温室効果ガス排出実質ゼロを目指す「環境ビジョン2050」を2018年に策定し、5年ごとの戦略経営計画「FUSION」にて具体的目標と施策を立案実行しています。

具体的数値としては、ライフサイクル全体での温室効果ガス実質排出量[※]の削減目標を、2019年を基準年とし、未対策のまま事業成長した場合の排出量と比べ、2025年に30%以上、2030年には50%以上削減としています。（2024年度実績：27%削減）

[※]温室効果ガス排出量から排出削減貢献量を引いたものと定義。

■製品面でのSDGsの取組み

編集部 製品面でのSDGsの取

組みはいかがでしょうか。

黒川 省エネ性能が特長の店舗・

オフィス用エアコン「FIVE STAR ZEAS」がSDGsに貢献する象徴的な商材となります。

まずは、電材卸店様にご提案させて頂き、次の段階として電材卸店様と一緒に電気工事店様にご提案し、最終的には電気工事店様と一緒にユーザー様にご提案し、選んで頂くことで、省エネやCO₂削減、そしてSDGsへの貢献に繋がると考えています。

体験型ショールームのダイキンソリューションプラザ「フーハ」も東京と大阪にありますので、是非ともご利用ください。

吉澤 特にコロナ禍を経て空気に対する関心が高まりました。エアコンや換気機器、空気清浄機といった空気商材は、空気そのものが安心・安全ですから、そ

の点でもSDGsに貢献しています。

また、左記に挙げたように、空調配管工事の省施工化にも取組んでおり、SDGsに繋がると思います。

「フレアレスジョイント」：施工

現場でのフレア加工作業をなくし、直管で機器に接続できるようにすることで、技量による差が出にくく、安定した高品質な仕上がりが期待できます。

「ドレン勾配フリー」：ドレン勾

配フリー用配管接続キットを使用することで、ドレン勾配を気にせず、簡単に取り付けできます。

「冷媒配管継手 クイックバイ

パー」：溶接不要で、銅管を差すだけのため、技量による仕上りの差が出ません。

また、溶接の準備・運搬・搬出にかかる時間がなくなり、事前の準備も楽になります。火災の安全対策、書類作成や届けの手間も不要です。

黒川 ユーザー様からすると、施

工が完了して初めて完成商品となりますので、施工品質の向上は商品の品質向上とイコールと言えます。



吉澤 業務用エアコンの「スカイエア」や「VRV」シリーズでは、「フレアレスジョイント」が標準搭載されています。こちらは品質向上への貢献度が高い商品です。

■将来展望

編集部 SDGsの取組みの将来

展望や課題がありましたら、お聞かせください。

黒川 コロナ禍で、かなり早い段階で全熱交換器の新商品を市場に投入したように、マーケットのニーズを先取りしながら、空気がよく、こだわって事業を展開していくのがダイキンの使命だと考えています。

吉澤 空調機が普及することにより、人々に安心・安全を提供する機会が増えますが、電力消費量が増えるという側面もあります。気候変動への影響をいかに少なくしていくかは、SDGsの目標年である2030年以降も考え続けていくべき当社のテーマです。



SDGs

いちおし

商品



店舗・オフィスエアコン『FIVE STAR ZEAS』シリーズ

(室内機)

FHCP112FC_sensing

(室外機)

RSRP224C



■商品・サービスの特長

1. 業界トップクラス^{※2}の省エネ性を実現し、大容量クラスを追加ラインアップ

- 電子膨張弁とファンの制御を組み合わせで見直し、冷媒制御を最適化。小容量クラスで業界トップクラスの省エネ性を実現。
- 8馬力、10馬力の大容量クラスをラインアップに追加し、大空間にも対応。

2. 業界初^{※1}のオーナー専用サポートサービス『省エネコンシェルジュ』^{※3}

- エアコンの稼働時間や設定温度状況を確認できるエアコン運転レポートを作成。
- エアコンの使い方や省エネ設定などを直接専門スタッフに相談できる窓口を開設。

※1 当社調べ：2023年9月11日時点。

※2 当社調べ：2023年9月11日時点。FIVE STAR ZEAS シリーズ P40～P63 形 S-ラウンドフロータイプ(三相200V)ペア接続時において。

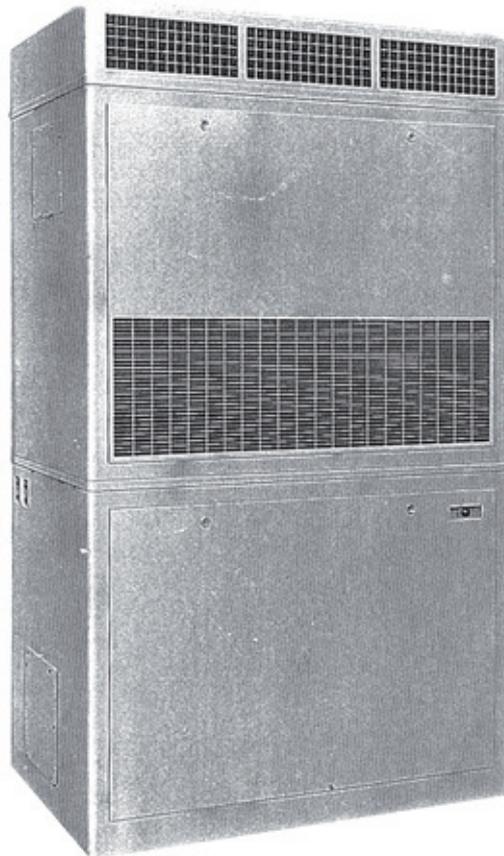
※3 サービス利用には「アシスネットサービス」の契約(有償)が必要です。

会社のお宝

／ ご紹介 ／



日本初の パッケージ型エアコン



1951年 日本初のパッケージ型エアコンを開発

日本初のパッケージ型エアコン『ミフジレーターエヤコン』を開発。従来の空調設備は設計、施工から運転に至るまで、高度な知識と技術を必要としましたが、パッケージ型エアコンは圧縮機、凝縮器や送風機を自動制御し、ボタン一つでの運転を可能としました。その便利さが評判となり、パッケージ型エアコンは空前のヒット商品に。「エアコンのダイキン」の基礎はこの時築られました。